

## サクスシェア事例検討会議 報告

サクスシェア社内にて事例検討会議を行いました。新規利用者様の情報をもとに利用計画の作成をテーマにした内容となりました。

### 1. 何のためにアセスメントしているのか？

書類上やご本人から疾病名や障がい等級など、様々な情報を得たうえで利用計画を作成しますが、疾病に対して理解をしたうえで計画を作成しているか、というところに焦点があたりました。障がい等級についても、あくまで目安ではありますが、その等級が出ている意味、また基準について理解ができていないと適切なサービスの選択、支給量についてあやふやになってしまいます。疾病の理解をしていることで「生活のどこに支障が出ているのか」等級を参考に「どのくらいの支給量が必要となるのか」といった判断の基準にすることができます。

### 2. 本当に必要なサービスになっているか？

利用するサービスについて、ご本人のニーズに合っているか。また、求めがあったとしてもそれが本当のニーズであるか。「働きたい」という思いがあったとして、就労先が遠方であったり、生活費のために無理をして就労していないか、そもそも「何のために働くのか」そういった理由であったり、思いを把握したうえでコーディネートしていくことについて話し合いました。

### まとめ：真のニーズとは？

ニーズには様々な意味合いが含まれていると思っています。まず、「このサービスが使いたい」という目に見えるニーズ。ですが、ニーズには様々な意味が込められていて、この意味をきちんと把握していないと見当違いの利用計画につながりかねません。

「居宅支援を利用したい」というニーズがあったとします。このニーズにはどのような思いが込められているのでしょうか？例えば、「独居で足腰が悪く、家に階段があるために生活に必要な食材や日用品の買い出しが困難なために誰かに代行してもらいたい」というニーズと、「自身で買い物には行っているが、欲しいものが遠方の店にしか置いてないためそれを買ってきてほしい」というニーズとでは、同じ買い物代行であっても必要性があるのかどうか、というところから変わってきてしまいます。

また、買い物代行のニーズであっても、利用者のアセスメントを行い、移動手段を検討することで自身で買い物に行ける可能性もあります。

ニーズには、「見えているニーズ」と「見えていないニーズ」とがあると思います。ここをできるだけ明確に整理して把握したうえで利用計画を作成していくことを心がけることが、適切な利用計画の作成につながるのではないのでしょうか。(相談支援専門員 松本浩治)